

2025年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	関西学院大学・教授
	氏名	松枝法道
海外客員 教員	所属・職	リール大学・教授
	氏名	エティエン・ファイルバック
招聘目的	1. 授業担当及び研究 ② 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2025年 11月 15日 ~ 2026年 1月 19日	
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。	<p>1. 科目は担当されなかった。</p> <p>2. 共同研究としては、主に、私（松枝）と東田啓作教授との研究を中心に行われた。私との共同研究の一つは、国際環境問題をめぐる国際条約の締結に際してロビー活動がどのような影響を持っているのかを考察するものであった。この研究については、既に二国間モデルにおいて一定の結果が得られており、学会やワークショップでの報告を経て、学術誌に投稿してきたものではあるが、その分析結果が二国間モデルに限定されているとの印象を与えることが主たるネックとなって学術誌への公刊に至らないことが問題となっていた。今回のファルバック教授の滞在中に、二国間モデルをより一般的なN国間モデルに拡張した分析を行い、さらに「コースの定理」に関する最近の研究結果をふまえた新規の分析を追加的に行うことで、これまでの二国間モデルによる研究では得られていなかった洞察を数多く得ることができた。</p> <p>次に多くの時間を費やした研究は、新しい試みであり、人間社会における文化の継承を通じた個人の選好の変化と、それと共進化をする経済・社会制度の変革に関する理論分析である。ファルバック教授はヨーロッパ在住の経済学者らと社会主義の興隆についての理論研究を継続して行われており、その基本的アイデアと私の近年の研究上の関心が近づいてきたことから、新しい共同研究として、新制度経済学と政治経済学の枠組みの中で、文化進化と限定合理性のモデルを取り入れた社会変化についての分析をスタートさせることとなった。</p> <p>また、東田教授との共同研究として、日本における「選挙割」というキャンペーンが若年層の投票率にどの程度寄与しているのかを測る実証分析についての研究準備も着実に進みつつあるようであり、今後の発展が大いに期待される。</p> <p>さらに、12月3日の経済学セミナーにおいては、パキスタンの選挙に際しての「投票購入」の実態を入手可能なデータから間接的にあぶりだす研究を紹介され、その内容や手法をめぐって参加者の間で非常に活発な議論が行われた。</p>	
1. 授業担当及び研究 (1) 授業科目名 (2) 授業担当の成果 (3) 研究の内容 (4) 研究の成果		
2. 共同研究 (1) 共同研究の内容 (2) 共同研究の成果		
3. 特別枠 (1) 活動内容 (2) 成果		

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます